

## (1) 富山湾に漂着したゴマフアザラシ

平成10年3月3日に富山県黒部市石田漁港内で衰弱したゴマフアザラシの幼獣1頭（雄、体長135cm、体重44kg）を保護し、水族館に運びましたが同日の夜、回復する事なく死亡しました。以下にその保護から死亡、解剖までの経過を報告します。

## 【3月2日】

- PM 3:00 報道機関より黒部市石田漁港内にアザラシが現れたとの連絡を受け確認に行く。港内で潜っては海面に顔を出すアザラシを発見し、ゴマフアザラシの幼獣であることが判明したが、近づくと潜って逃げるのでそのまま帰る。

## 【3月3日】

- AM10:00 石田漁港内の船揚場にアザラシが漂着し、近づいても逃げず弱っているの、何とか助けられないかとの電話が水族館に相次ぐ。

- PM 2:00 富山県自然保護課より魚津水族館にアザラシ保護の要請がある。水族館に獣医がいないので、富山市ファミリーパークに獣医派遣をお願いする。



写真提供 朝日新聞社

- PM 3:00 富山県東部家畜保健衛生所の獣医立会いのもとにアザラシを捕獲し、トラックで水族館に運び込む。
- PM 4:00 富山県東部家畜保健衛生所の獣医が応急処置をする。体温（直腸温）を測ったところ35.5℃とかなり低い。毛布で体を包みストーブで暖房する。抗生物質、強肝剤を筋肉注射。
- PM 6:30 富山市ファミリーパークより獣医2名が到着し、治療を引き継ぐ。体温を上げるため小プールにお湯を入れ体を暖める。脱水症状を和らげるため内服用電解質剤（200cc×4本）を経口投与する。  
強制給餌に備えて鯖のミンチを作る。
- PM 8:50 体の震えが少しあってから死亡する。
- PM 9:00 今後の解剖等に備えて氷水でアザラシの体を冷す。

## 【3月4日】

- AM10:00 解剖し、その死因を調べるために富山県東部家畜保健衛生所に死亡したアザラシを運ぶ。

解剖に立会い下記の所見を得た。

著しく痩せており通常4～5cmの厚さがある皮下脂肪が1～2cmしかない。

背が曲がっているが背骨に異常は見られず衰弱によるものと思われる。

胃壁に鶏卵大の膿瘍があったが直接の死因となったかは断定できない。しかし、これが原因で餌が食べられなくなり衰弱した可能性もある。

肉眼的には寄生虫は認められなかった。

後の研究のために各組織の一部をホルマリン固定及び凍結保存し、解剖を終えたアザラシは焼却処分された。

なお、後で送られてきた家畜保健衛生所からの正式の解剖所見は次の通りであった。

外 貌：削瘦・眼球陥没

皮下脂肪：体全体的に乏しい

胃：中に固形物なし

胃壁（外側）に鶏卵大の膿腫（化膿性炎症）あり

腸：内容物に乏しい

膀胱：尿の貯留なし

腎 臓：結石（砂粒状）あり

今回は、アザラシが漂着した地元の黒部市商工水産課より、富山県の水産漁港課・自然保護課に連絡がいき、県の自然保護課より魚津水族館にアザラシ保護の要請がありました。しかし野生生物の保護が強く叫ばれているもののアザラシを守るための規則等は全くありません。保護動物ではないということで法律上、アザラシを保護する体制は整えられていません。アザラシが法律上保護動物ではないにせよ、世界的な自然保護意識の高まりの中でこれら野性動物の保護のための連絡・協力体制の確立が是非必要と思われます。

今回のゴマフアザラシの死を無駄にする事なく、今後はその体験を生かして行きたいと思います。



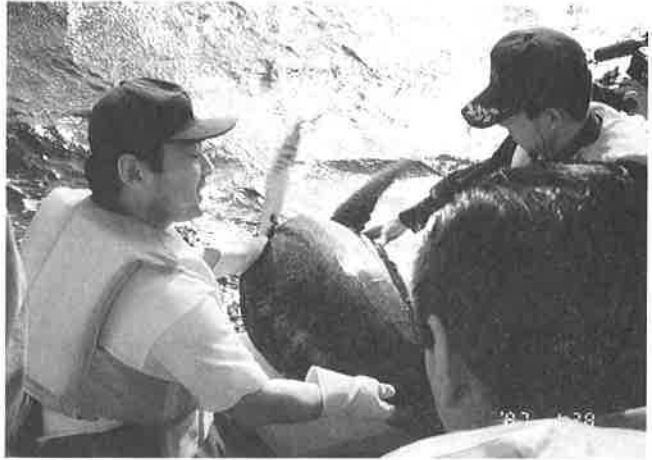
多くの人々の懸命な努力にもかかわらずゴマフアザラシは死亡しましたが、保護・救助のために駆けつけて下さいました富山市ファミリーパークの職員、ならびに御協力いただきました富山県東部家畜保健衛生所の職員の皆様に深く感謝いたします。

— 加 野 泰 男 —

## (2) 富山湾魚津沖でアオウミガメが捕獲される

平成10年11月11日の朝、魚津市北鬼江沖合の定置網（杉の端定置）にアオウミガメ1頭が捕獲され水族館に運ばれました。

捕獲されたアオウミガメは甲羅の長さ73cm、幅67cmで体重は55kgの若い個体で体表等に傷はなく元気でした。富山湾で捕獲されるウミガメはアカウミガメがほとんどで、まれに外洋性のオサガメが紛れ込むことがあります。アオウミガメが捕獲されるのはきわめて珍しく、魚津水族館の記録では昭和59年7月11日に新潟県青海町沖合500mの青海定置網で捕獲された1個体（甲長45cm、体重11kg）があるのみです。



水族館では今回捕獲されたアオウミガメの飼育展示も検討しましたが、現在アオウミガメとアカウミガメの成体各1頭づつを飼育しており水槽も狭いこと、アオウミガメが国内的にも希少種であることと、捕獲されたアオウミガメに外傷等がなく元気でよく太っていること、さらにこの時期の富山湾の表面海水温が20℃近くあり、自力で移動が可能と思われることなどを総合的に判断し放流することにいたしました。再度定置網等に紛れ込むことがないように、富山湾のできるだけ沖合で放流することが望まれますので魚津消防署に協力を求め、救助艇「雄山丸」の定期航行訓練に便乗させてもらうことになりました。

捕獲3日目の11月14日の朝、水族館職員が2人付添い、魚津経田漁港を出航し、黒部市生地沖約20kmの富山湾沖合に、アオウミガメが放流され、元気に泳ぎ去りました。

— 加 野 泰 男 —

## (3) 富山湾氷見沖でタイマイが捕獲される



平成10年11月20日に富山県氷見市阿尾沖の小型定置網（阿尾小岸）でタイマイ1頭が捕獲されました。甲羅の長さ42cm、幅36cmで体重9kgの若い個体で甲羅の腹面にウミエラビルが1個体吸着していました。

日本近海には5種類のウミガメが知られていますが、富山湾で記録されているのはアカウミガメ・アオウミガメ・オサガメの3種類のみでタイマイの正式な記録はありません。現地の小型タンク内で元気に泳いでいま

したので測定・写真撮影ののち、明朝できるだけ沖合で放流していただくようお願いして帰りました。

— 加 野 泰 男 —